

生涯スポーツ施設の現状と課題

木更津高専 学生会員 ○伊藤 忍

木更津高専 正会員 鬼塚信弘 金井太一

1. はじめに

我国の抱える問題の一つに少子高齢化問題があげられる。また介護を必要とする寝たきりや痴呆の高齢者が急速に増加してきており、今後もその増大が見込まれている。高齢者ができる限り要介護状態に陥ることなく、健康でいきいきとした生活を送れるようにするためには思春期から一生涯にわたって運動を実施することが大切である。特に学校を卒業し、最低限の運動が確保されなくなった社会人（青年期～中高年期）は意識的に運動を取り入れることが望ましい。それぞれのライフステージに適した運動・スポーツを選択し、全生涯をトータルに考えたスポーツ・プログラムを立てて実施していくことが生涯スポーツである¹⁾。この生涯スポーツを実践するためには誰もが気軽に利用できるスポーツ施設の整備・充実が必要であり、本研究では千葉県におけるスポーツ施設の実態調査をおこなってその現状と課題をまとめた。

2 スポーツ施設調査

スポーツ施設の調査にあたってはあらかじめホームページ²⁾等で千葉県内のスポーツ施設の中から生涯スポーツ、特に老年期に適したスポーツを楽しむことのできる設備（ゲートボール場、ジョギングロードなど）を有する施設を特定し、調査を実施した。ここでは、

人口動態が特徴的な3市町村のスポーツ施設を取り上げる（表-1, 2）。

2-1. 和名ヶ谷スポーツセンター（松戸市）

松戸市は人口、人口密度ともに千葉県で3番目に高くなっている。松戸市のように人口が集中している都市では手軽に利用できる公園、スポーツ施設の用地の確保が難しいなどの問題があり、和名ヶ谷スポーツセンターも市の土地にクリーンセンターと併設されている。設備としては体育館、トレーニング室、ゲートボール場、プールがあり、よく利用されていた。ゲートボール場は屋内に設置されており、雨天のときも利用されている。全体的には個人で楽しむことができるスポーツ施設となっている。駅前からバスも出ており、自動車を持たない人でも気軽に利用できる。

2-2. 水と緑の運動公園（栄町）

栄町は利根川沿いにある人口2万5千人程度の町であるが、近年は人口が減少している。利根川沿いにはスーパー堤防が築かれ、その上に水と緑の運動公園は作られている。公園には野球場、テニスコート、弓道場、相撲場、ジョギングコースがあるが利用者は少なく、ジョギングコース沿いに設置されている健康器具の破損や落書きがあり、維持管理が悪かった。公園の周囲には田んぼが多く、人家はあまり見当たらないことから利用者は自動車等で来場しなくてはならない。

表-1 千葉県内各市町村と全国の人口割合^{3) 4)}

地域	総数 (人)	年少人口 (15歳未満) (人)	生産年齢人口 (15歳以上 65歳未満) (人)	老年人口 (65歳以上) (人)	年少 人口割合 (%)	生産年齢 人口割合 (%)	老年 人口割合 (%)	人口 増加率 (%)
本埜村	8,361	1,718	5,339	1,304	20.5	63.9	15.6	85.2
栄町	25,601	3,196	18,482	3,923	12.5	72.2	15.3	-0.5
松戸市	465,707	65,435	334,343	65,929	14.1	71.8	14.2	0.7
千葉県	6,032,516	837,007	4,254,789	940,720	13.9	70.5	15.6	2.2
全国	126,925,843	18,472,499	86,219,631	22,005,152	14.6	67.9	17.3	1.1

キーワード 生涯スポーツ, スポーツ施設, 少子高齢化

連絡先 〒292-0041 木更津市清見台東2-11-1 木更津高専 TEL0438-30-4161 E-mail: conizuka@minato.kisarazu.ac.jp

表 - 2 スポーツ施設への最寄り駅からのアクセス

施設名	最寄り駅からのアクセス
本埜スポーツ プラザ	JR 小林駅から徒歩 25 分 またはタクシー利用
水と緑の運動公園	JR 安食駅から徒歩 50 分 またはタクシー利用
和名ヶ谷スポーツ センター	JR 常磐線松戸駅東口よりバス 三谷小台行き「美野里ハイタウ ン」下車徒歩 10 分



写真 - 1 和名ヶ谷スポーツセンター
屋内ゲートボール場



写真 - 2 水と緑の運動公園 ジョギングコース



写真 - 3 本埜スポーツプラザ ゲートボール場

2 - 3 本埜スポーツプラザ（本埜村）

本埜村の近隣市町村には千葉ニュータウンが整備され、それに伴い直接都市部へのアクセスが可能な鉄道（北総開発鉄道）が整備されたことにより、転入者が増加した。特に若い夫婦の転入が多く、小さな子供を含む若年人口の割合が圧倒的に高くなっている。この本埜スポーツプラザには野球場、陸上競技場兼サッカー場、テニスコート、ゲートボール場、ジョギングロード、健康広場、子供広場、芝生広場といった体を動かすことのできる施設のほかに、地域住民相互のふれあいの場として、多目的に利用できる本埜ふれあいプラザが併設されている。このようにスポーツ施設と住民のためのコミュニティー施設が併用されている公園は様々な人が利用できる。また最寄り駅からは徒歩 25 分と少々離れているが、タクシーを利用することもできる。

3 まとめ

調査を実施した 9 つのスポーツ施設のうち 5 つの施設はよく利用されていたが、残りの 4 つの施設はあまり利用されていなかった。この原因として考えられるのは市街地、最寄り駅からのアクセスが悪く、気軽に利用できない。コミュニティプラザや管理室が併設されていない施設では維持管理が悪く、器具の破損などがみられた。住民の多様な要望に応じて施設を提供するために必要な諸条件（市街地、最寄り駅からのアクセスの良さ、コミュニティプラザの併設など）を調査することで、将来においても十分な需要に耐えられる施設を作ることが重要である。スポーツ施設自体が、住民の憩いの場となるよう配慮することが望まれる。

【参考文献】

- 1) 松本清一，石河利寛：中高年の運動指導テクニック
- よりよい運動処方とカウンセリングのために -
文光堂，1998
- 2) おもしろ半島ちば
<http://www.omoshiro-chiba.or.jp>
- 3) 総務省統計局：<http://www.stat.go.jp/>
- 4) 千葉県ホームページ：<http://www.pref.chiba.jp>